

短 報

保健・看護職のキャリア発達に関する研究動向

小海節美*¹ 津島ひろ江*²

はじめに

近年、社会的・経済的環境の変化に伴って、労働の状況も構造的に変化し、その影響は個人の意識や価値観にも及んでいる。保健・看護職をめぐる状況も制度や教育、看護師不足が大きな社会問題となるなど急速な転換が進行している。その背景としての健康問題の変貌、医療の高度化・複雑化、安全な医療への要求に連動する専門性、職場環境、教育や研修の課題解決が急がれている。

こうした状況のなかで特に専門性の向上に関わるキャリア発達とアイデンティティは、現代のチーム医療における他職種との協働の推進という側面からも重要な課題となっている¹⁾。

本研究は、養護教諭のキャリア発達に関する研究に取り組むにあたりその第一段階として近接領域である保健・看護職におけるキャリア発達に関する研究を概観し、研究の基礎資料とすることを目的とする。

研究方法

学術雑誌と大学などで発行された研究、紀要の両方を検索できる『Cinii』及び国内発行の医学、看護学及びその関連領域の雑誌、論文を収録したデータベースである、『医学中央雑誌』で保健・看護職における「キャリア」に関する文献を検索し検討した。

結 果

1. 保健・看護職における「キャリア」に関する文献の検索

キーワード「キャリア発達 看護」、「キャリア発達 看護師」、「キャリア発達 保健」、「キャリア発達 保健師」、「キャリア発達 養護教諭」、「キャリア 看護」、「キャリア 保健」、「キャリア 養護」、「キャリア 看護師」、「キャリア 保健師」、「キャリア開発 看護」、「キャリア開発 保健」、「キャリア開発 看護師」で検索した結果、1986年から2006

年まで、総文献数は380であった。そのなかで、保健・看護学分野においてキャリアに関する研究が比較的活発となった1990年代以降について、原著を中心に、題目に「キャリア発達」「キャリア開発」とある論文49件を抽出した。

2. 抽出文献の掲載年、研究対象、研究方法(表1)

- 1 論文の掲載年別の論文数は、1990年代の10年間は11件であったが、2000年から5年間では38件と2000年代が8割近くを占めていた。
- 2 研究対象(一部重複)は、主として看護師(婦)で41件(准看護師3件を含む)、保健師が5件、助産師3件、看護学生6件(准看護学生1件を含む)、看護教員1件、養護教諭4件であった。
- 3 研究方法は、質問紙調査法が35件、面接(半構成的面接)法が12件、と質問紙調査法が多くみられた。面接法が用いられるようになったのは2000年以降からである。

3. 「キャリア発達」文献と「キャリア開発」文献(表2)

49件の文献について、「キャリア発達」が題目に入っているもの(31件)と、「キャリア開発」が入っているもの(18件)とに区分して整理し、比較検討を試みた(以後「キャリア発達」文献、「キャリア開発」文献とする)。

- 1 抽出した文献49件をみると、「キャリア発達」文献は1990年からみられるが、「キャリア開発」文献は1999年以降からである。
- 2 研究方法は「キャリア開発」文献の方が「キャリア発達」文献に比べ面接調査法が多くみられた。前述したように質的研究法である面接(半構成的面接)法がみられるのは2000年以降からである。さらにライフヒストリー法による分析は2005年に1件みられるのみであった。
- 3 学術誌に掲載されていたものは5件で全て「キャリア発達」文献であった。「キャリア発

*1 福山市立女子短期大学 *2 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科
(連絡先)小海節美 〒720-0074 福山市北本庄四丁目5-2 福山市立女子短期大学

表1 検討文献における論文数・研究対象・研究方法

年	論文数	対 象(一部重複)					研究方法(一部重複)			
		看護師(婦)	保健師(婦)	助産師	看護学生	養護教諭	看護教員	質問紙	面接	その他
1990	1				1			1		
1991	1				1			1		
1992	1				1			1		
1993	1	1						1		
1994	2	2						2		
1995	1	1						1		
1996	1	1						1		
1997	0									
1998	0									
1999	3	3						3		
2000	2	2						1	2	
2001	7	7						4	3	
2002	6	4	3	1		3		5		1
2003	7	6			1			3	3	1
2004	3	3			1			2	1	
2005	12	11	2	2		1	1	8	3	1
2006	1				1			1		
計	49	41	5	3	6	4	1	35	12	3

達」文献は紀要も比較的多く、掲載誌の範囲が多領域に亘っているが、「キャリア開発」文献は日本看護協会発行の日本看護学会論文集『看護管理』が多い。

4 「キャリア発達」文献

渡辺は、「develop」を、心理学を背景とする人は「キャリア発達」、経済学、経営学を背景とする人は「キャリア開発」と訳し、前者はキャリアのもつ主観的側面に焦点を、後者は客観的側面に重点を置く、と述べている。また「キャリア発達」が、個人がキャリアを発達させていく「心理学的メカニズム」、「キャリア開発」はキャリア発達が個人と組織にとって一層意義有らしめていくための「方途」である、との論を紹介している²⁾。

そこで本研究では、今後取り組む研究内容から、本研究における文献の研究内容の検討について、検討の対象を題目に「キャリア発達」の用語が用いられている31文献とした。

4.1 文献のキャリアの定義

論文のなかで、「キャリア発達(発達過程)」として定義を記述しているものは6件であり、定義の全てに共通しているのは、「(自己)実現」または「成長」の用語であった。

4.2 研究内容の分類(表3)

文献の研究内容を次のようにカテゴリー化した。「職場環境」、「移動、異動」、「キャリア発達の要因、構造、特質、影響因子」、「経験年数と研修」、「卒後教育、継続教育」、「職務特性」、「ライフイベント」、「その他」の8項目に分類できた。

1 職場環境

1990年に職業観を職業イメージとして測定、分析するという研究が二報にわたって報告されている。若林らは、高校衛生看護科専攻科を除く7課程の看護学生を対象とした調査を行っている。看護学生の職場環境として「看護婦」「医師」「患者」「病院」の4種をキーコンセプトとしてイメージ測定を行い、イメージの課程間比較における2年課程学生の特異性と、学年段階における職場環境イメージのネガティブな方向への変化をあげている。またこの変化は、以降も鈍化、停滞しながらも概ね維持されることを報告している。

さらに対象を准看護学生とし、就業環境と意識を調査した研究では、医療施設の規模により指標は逆の結果を示すことを明らかにした。また、そうした准看護学生の就労・就学実態について、就労時間は施設規模間での相違が顕著、通学に対する職場の配慮は、有意な施設規模間の差が認められた事を報告している³⁻⁵⁾。

人的環境に関する研究では、県立病院の柴田らはベナーの5段階の技能修得レベルも調査内容とした調査を行い、卒後10年までの教育と達人レベルの看護婦における積極的指導が、当院の在職率を上げている理由の一つと結論している⁶⁾。

このように高度な専門性を有する同僚の存在が、キャリア発達に与える影響に関する研

表2 「キャリア発達」・「キャリア開発」文献

NO	年	論文題目	著者	掲載誌	研究対象	研究方法
1	1990	看護職キャリア発達	若林瑞穂	名古屋大学教育学部紀要, Vol. 37, 31-50	看護学生	質問紙
2	1991	看護職キャリア発達	若林瑞穂	名古屋大学教育学部紀要, Vol. 38, 47-65	看護学生	質問紙
3	1992	看護職キャリア発達	若林瑞穂	名古屋大学教育学部紀要, Vol. 39, 1-13	看護学生	質問紙
4	1993	職業継続意識とキャリア発達	山田光子	第24回日本看護学会論文集 看護管理 21-23	看護婦	質問紙
5	1994	看護職キャリア発達と職務満足	柴田真由美	第25回日本看護学会論文集 看護管理 137-139	看護婦	質問紙
6	1994	大学病院看護管理のライオンズとキャリア発達	長友みゆき	病院管理 Vol. 31, No. 3, 25-31	看護婦	質問紙
7	1995	看護職キャリア発達に関する研究	長友みゆき	看護研究 Vol. 32, No. 3, 19-26	看護婦	質問紙
8	1996	看護職キャリア発達に関する実証的研究	草刈淳子	看護研究 Vol. 29, No. 2, 31-46	看護婦	質問紙
9	1999	看護職キャリア発達に関する要因について	川原尚子	神奈川県立看護教育大学看護教育研究集録 269-276	看護婦	内容分析
10	1999	看護職キャリア発達に関する要因について	深澤祥代子	日本手術医学 Vol. 20(4), 432-434	看護婦	質問紙
11	2000	臨床看護職のキャリア発達過程に関する研究	水野暢子	看護管理 Vol. 4, No. 1, 13-22	看護婦	質問紙
12	2001	臨床看護職のキャリア発達志向に与える影響	門屋久美子	第32回日本看護学会論文集 看護管理 33-34	看護婦	質問紙
13	2001	看護職キャリア発達におけるメンタリングの一考察	菊地佳代	北海道医療技術短期大学紀要 14号 7-15	看護婦	質問紙
14	2002	岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査	林由美子	岐阜県立看護大学紀要 第2巻1号 28-33	看護婦	質問紙
15	2002	岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査	池西悦子	岐阜県立看護大学紀要 第2巻1号 34-40	看護婦	質問紙
16	2002	岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査	グレッグ美絵	岐阜県立看護大学紀要 第2巻1号 41-47	看護婦	質問紙
17	2002	看護職キャリア発達に関する研究(1)近接領域におけるキャリア研究の概観	山道弘子	日本看護教育学会誌, 5(1), 76-91	看護教諭	文献
18	2002	看護職キャリア発達に関する研究	山道弘子	茨城大学教育学部紀要, 教育科学 51, 141-151	看護教諭	質問紙
19	2002	看護職の組織内キャリア発達一組織と個人の適合過程一	坂口桃子	国際医療福祉大学紀要 第7巻 1-29	看護婦	質問紙
20	2003	臨床看護職のキャリア発達と学習についての一考察	グレッグ美絵	岐阜県立看護大学紀要 第3巻1号 1-8	看護婦	半構成的面接
21	2003	看護職キャリア発達に関する基礎的研究1一救急看護の職務特性一	長谷川真美	第34回日本看護学会論文集 看護教育 139-141	看護婦	質問紙
22	2003	救急看護の職務特性とキャリア発達に関する基礎的研究1一救急看護の職務特性一	坂口桃子	日本救急看護学会雑誌 4巻2号 88-98	看護婦	質問紙
23	2004	看護職キャリア発達と継続教育の相関に関する一考察	小野幸	日本看護学会誌第5巻第1号 63-72	看護婦	質問紙
24	2004	看護職キャリア発達と継続教育の相関に関する一考察	兼宗美幸	第35回日本看護学会論文集 看護教育 226-228	看護婦	質問紙
25	2004	救急部門に働く看護職のキャリア発達に関する実証的研究一キャリア志向における移行プロセスにおけるプロフェッショナルの変容に焦点を当てて一	坂口桃子	日本臨床救急医学会雑誌 7巻3号 240-247	看護婦	質問紙
26	2004	プロフェッショナルの変容に焦点を当てて一	勝原美枝子	経営行動科学学会年次大会発表論文集 (7) 40-47	看護学生, 看護婦	面接
27	2005	先駆的な公衆衛生看護活動を展開した保健師のキャリア発達一難島の町の保健師のライフヒストリーから一	田中美延里	広島大学保健ジャーナル Vol.5(1) 16-27	保健師	半構成的面接
28	2005	看護職の専門性向上に必要な要素からみたキャリア発達支援システムの課題	石飛川里	第36回日本看護学会論文集 看護管理 383-385	看護婦, 助産師	質問紙
29	2005	国公私立大学病院看護管理のキャリア発達一ライフイベントの1990年度調査との比較一	長友みゆき	病院管理 42巻1号 89-97	看護婦	質問紙
30	2005	中高年看護職者のキャリア発達に関する実証的研究一キャリア発達に関する実証的研究一	富田美紀	高知大学医学部看護・保健科学研究誌 第5巻第1号113-122	看護婦	質問紙
31	2005	当毛衛生看護師の自己啓発への影響因子一キャリア発達過程, 環境, 個人因子より考える一	川崎広子	日本手術医学誌 Vol. 26(4), 72-74	看護婦	質問紙
32	1999	看護師(正)のキャリア開発に対する意識と行動の現状とキャリア・デザイン・トップマネジメント・プログラムを用いた評価方法の必要性に対する意識の実態について	山本妙子	神奈川県立看護教育大学看護教育研究集録 338-334	看護婦	質問紙
33	2000	看護職者のキャリア開発における学習の現状と課題	近藤祐子	安田女子大学大学院文学研究紀要 第5集 119-133	看護婦	質問紙, 面接
34	2001	市立病院の看護職者のキャリア開発に関するニーズと職務満足度に関する調査	近藤祐子	愛知県立看護大学紀要 Vol.7 53-60	看護婦	半構成的面接
35	2001	看護管理職者の職務遂行能力(キャリア)開発に影響する要因についての一考察	森山恵子	仏教大学大学院紀要	看護婦	質問紙
36	2001	キャリア開発のためのニーズ調査一職業継続意識と将来展望に関する調査	井坂波乃	第32回日本看護学会論文集 看護管理 30-32	看護婦	質問紙
37	2001	キャリア開発におけるニーズ調査一職業継続意識と将来展望に関する調査	服部美穂	第32回日本看護学会論文集 看護管理 243-245	看護婦	半構成的面接
38	2001	キャリア開発におけるニーズ調査一職業継続意識と将来展望に関する調査	谷口満里子	第32回日本看護学会論文集 看護管理 393-395	看護婦	質問紙
39	2003	当院における看護師のキャリア開発	名瀬美穂	第34回日本看護学会論文集 看護管理 15-17	看護学生	質問シート
40	2003	看護職員キャリア開発の現状と大学の役割	日村たみ子	第34回日本看護学会論文集 看護管理 210-212	看護婦	半構成的面接
41	2003	看護職員のキャリア開発の現状と大学の役割	横山恵子	第34回日本看護学会論文集 看護管理 216-218	看護婦	質問紙
42	2003	看護職員のキャリア開発の現状と大学の役割	横山恵子	第36回日本看護学会論文集 看護管理 211-213	看護婦	質問紙
43	2005	精神科病棟に勤務する看護職者の就業実態一キャリア開発支援を考へる一	松原康幸	第36回日本看護学会論文集 看護管理 9-11	看護婦	質問紙
44	2005	キャリア開発プログラムの導入効果一キャリア開発プログラムの導入効果一	横山恵子	第36回日本看護学会論文集 看護管理 163-165	看護婦	半構成的面接
45	2005	看護職キャリア開発に関する実証的研究一看護職者のキャリア開発に関する実証的研究一	松原康幸	第36回日本看護学会論文集 看護管理 15-17	看護婦	質問紙
46	2005	看護職キャリア開発に関する実証的研究一看護職者のキャリア開発に関する実証的研究一	松原康幸	第36回日本看護学会論文集 看護管理 163-165	看護婦	質問紙
47	2005	看護職キャリア開発に関する実証的研究一看護職者のキャリア開発に関する実証的研究一	横山恵子	第36回日本看護学会論文集 看護管理 266-268	看護婦	質問紙
48	2006	看護職キャリア開発に関する実証的研究一看護職者のキャリア開発に関する実証的研究一	小園田真子	日農医誌 53巻 5号 811-816	看護婦	質問紙
49	2006	看護職キャリア開発に関する実証的研究一看護職者のキャリア開発に関する実証的研究一	原田広枝子	九州大学医学部保健学紀要 Vol.7, 13-22	看護学生	質問紙

表3 「キャリア発達」文献の内容分類

内容分類	年	論文題目	著者	目的	対象	研究方法
職場環境	1990	看護職キャリア発達—看護学校入学1年後における職業環境認知の変化—	若林他	看護婦, 医師, 患者, 病院のイメージを測定し統合し, 看護職を取り巻く職業環境認知を捉え, こうした認知が看護職のキャリア発達とともにどのように変化するかを明らかにする。	看護学生	質問紙調査法
	1991	看護職キャリア発達 (2) 看護学校入学後2年間における職業環境認知の変化—	若林他	わが国の看護婦養成制度の特徴を考慮した上で, 看護職のキャリア発達を検討する。当人は看護学生の職業観の形成, 変容の過程を明らかにする。	看護学生	質問紙調査法
	1992	看護職キャリア発達研究 (3) — 勤労准看護学生の就業環境および就業意識—	若林他	勤労准看護学生の就労・就学実態を明らかにするとともに, それぞれの規模の医療施設が有する問題点を「勤労准看護学生の目」を通じてあきらかにする。	准看護学生	質問紙調査法
	1994	看護婦のキャリア発達と職務満足の関係—ベナーの技能修得レベル別にみて—	柴田他	キャリア発達を促す人的環境がどうあればいいかを導きだす	看護婦	質問紙調査法
	2001	認定看護師の存在が看護婦のキャリア発達志向に与える影響	門屋他	当院の看護婦のキャリア発達志向に, 認定看護師が与える影響について分析し, 今後の人材育成の方向性を見出す。	看護師	質問紙調査法
	2001	看護職のキャリア発達におけるメンタリングの考察—メンタリングとキャリア目標意識との関係を中心として—	菊地	看護職のキャリア発達におけるメンタリングの有用性について検討する	看護師	質問紙調査法
	2003	看護師のキャリア発達とメンター—キャリア発達段階とメンタリングに関する面接調査—	小野	看護師のキャリア発達に影響を及ぼすメンター及びそこで提供されるメンタリングの関係をキャリアの発達段階ごとに質的研究方法で捉える等。	看護師	半構成的面接法
キャリア発達の要因・構造・特質・影響因子	1993	職業継続意識とキャリア発達の要因—大学病院における価値観, 性役割の意識調査—	山田他	看護婦の職業継続意識からキャリア発達にむかう要因を明らかにする	看護婦	質問紙調査法
	1996	看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する実証的研究	草刈	いかなる経過を辿って看護婦として成長発達を遂げてきたのか, その過程を経年的に明らかにする。	看護婦	質問紙調査法
	1999	看護婦のキャリア発達に関連する要因について	川原	看護婦のキャリア発達に関連する要因を明らかにする。どのような時期にどのような要因が, キャリア発達過程に影響を及ぼしたかを明らかにする。	看護婦	半構成的面接法
	2000	臨床看護婦のキャリア発達過程に関する研究	水野他	看護専門職のキャリア開発に関する支援体制を検討するために, 臨床看護婦の経験に焦点を当てて, キャリア発達過程とその影響因子を明らかにする	看護婦	半構成的面接法
	2002	養護教諭のキャリア発達に関する研究—キャリア発達への影響因子に焦点をあてて—	山道他	養護教諭をキャリア発達という視点から捉える。養護教諭のキャリア発達への影響因子のなかの職業意識, キャリアアンカー, 成長に役立ったことの3側面について調査分析する。	養護教諭	質問紙調査法
	2003	臨床看護師のキャリア発達の構造	グレッグ他	臨床看護師が, 職業を継続するなかでの経験を調べることにより, キャリア発達の構造を明らかにする。	看護師	半構成的面接法
	2005	先駆的な公衆衛生活動を展開した保健師のキャリア発達—離れの町の保健師のライフヒストリーから—	田中他	先駆的な公衆衛生活動を展開した一人の保健師の仕事生活に関連する人生体験に焦点を当て, キャリア発達を記述し, その特質を明らかにする	保健師	非構成的面接, ライフヒストリー法
	2005	看護師の専門性の向上に必要な要素からみたキャリア発達支援システムの課題	石飛他	効果的なキャリア発達支援システムの構築に向け, 必要な課題を検討する。	看護・助産師	質問紙調査法 (内容分析)
	2005	中高年看護職者のキャリア発達に影響を及ぼす要因の検討	宮田	臨床での体験を通して, 役割についていない中高年看護職者 (40~50歳代) のキャリア発達の要因を明らかにする。	看護師	半構成的面接法
異動, 移動	1995	大学病院看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する研究 その4) 異動・移動の実態とその要因	長友他	キャリア形成にとって重要な意味を持つ異動・移動はどのようなものであったのか, その実態と要因を明らかにする。	看護師	質問紙調査法
	1999	手術室看護婦の年次目標とキャリア発達の関連	深澤	看護婦の年次目標を分析しそれがどのように各自のキャリア発達に影響しているかをみる。	看護婦	内容分析
卒後教育・継続教育	2002	岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査 第1報—岐阜県立看護大学が実施している諸制度の認知と大学院準備への希望—	林他	看護生涯教育に関する本学の諸制度や提供しているサービスについてどのような対象にどれくらい認知されているか把握すること, 併せて情報提供を目的とした	看護・准, 保, 助, 養教	質問紙郵送法
	2002	岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査 第2報—キャリア発達をめざした活動の実態と看護系大学における制度活用希望者の特徴—	池西他	キャリア向上のためにこれまで実施した内容と今後希望している内容, さらに看護系大学の活用希望者の特徴を明らかにする	看護・准, 保健師	質問紙調査法
	2002	岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査 第3報—編入学を希望する看護職の要因分析と編入学への期待—	グレッグ他	編入学試験受験意志のある者の特性, 本学の制度に対する認識, 受験に影響する要因, 及び編入学への期待を明らかにする。	看護師, 保健師	質問紙調査法
	2003	看護師のキャリア発達と学習についての考察—キャリア探索期・試行期に焦点をあてて	長谷川他	フェーストレベル研修に参加する以前の段階にある看護職キャリア探索期等にある看護職の過去の学習, 今後の学習や自己のキャリアに対する考えを把握し継続教育の課題等の資料とする。	看護師	質問紙調査法
職務特性	2004	看護師のキャリア発達の意識と継続教育の情報に関する考察	兼宗他	臨床看護師におけるキャリア発達の意識と継続教育に関する情報の入手などの実態から, 継続教育における支援について考察する。	看護師	質問紙調査法
	2002	看護職の組織内キャリア発達—組織と個人の適合過程—	坂口	看護職のキャリア志向と, 職務特性の適合がキャリア結果に及ぼすメカニズムについて検討する。	看護師	質問紙調査法
	2003	救急看護の職務特性とキャリア発達に関する基礎的研究1—救急看護の職務特性—	坂口他	救急看護の職務特性を明らかにする	看護師	質問紙調査法
ライフイベント	2004	救急部門に働く看護職のキャリア発達に関する実証的研究—キャリア志向に焦点をあてて—	坂口他	救急看護職のキャリア開発システムの構築	看護師	質問紙調査法
	1994	大学病院看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する研究 その1 基本属性とライフイベントを中心に	長友他	組織の頂点にたつ看護部長と副看護部長の基本属性とライフイベントを調査する。	看護師	質問紙調査法
その他	2005	国公私立大学病院看護管理者のキャリア発達—ライフイベントの1990年度調査との比較	長友他	国公私立大学病院看護管理者のキャリア発達と家族歴・ライフイベントの関連を明らかにする。	看護師	質問紙調査法
	2002	養護教諭のキャリア発達に関する研究 (1) — 近接領域におけるキャリア研究の概観—	山道他	養護教諭のキャリア発達の研究の基礎的研究として, 近接領域におけるキャリア研究の動向を概観し示唆を得る	養護教諭	文献研究
その他	2004	専門職のキャリア発達に影響を与えるリフレクションの実態—看護学生から看護師への移行プロセスにおけるプロフェッショナルフードの変容に焦点を当てて—	勝原他	新人は自らのプロフェッショナルフードをどのようにとらえているか, 学生時代に育まれたプロフェッショナルフードはどのような変容を遂げるか	看護学生, 看護師	面接調査法

究では、門屋らは、看護婦のキャリア発達志向に、認定看護師の存在が他の看護婦のスペシャリスト志向を高めることに影響していると結論付けている⁷⁾。

1997年以降に看護職におけるメンターやメンタリングの研究発表を続けている小野は、キャリア選択時のメンタリングはモデルと助言が多く、モデルの一つは、身近に看護師がいた場合である等と報告している⁸⁾。看護職のキャリア発達におけるメンタリングの有用性について検討した菊地は、看護職はメンタリングのキャリア支援が少ない傾向にあったが、職場内の上司、先輩をメンターとしてメンタリングを受けているプロディは、キャリア目標意識が高い傾向にあったとまとめている⁹⁾。

2 移動、異動

キャリア形成にとって重要な意味をもつ異動・移動の影響について、長友と草刈は、全国の国公立大学病院の看護部長・副看護部長を対象に、質問紙調査を行い、結婚後の移動・転勤は配偶者のキャリアの影響を受け、昇任は移動可能な未婚者と子どものいない既婚者に有利に働いている。それは、Scheinの「キャリア発達の三次元モデル」で示された縦へのキャリア発達を加速させる要因であることを、明らかにしている。この報告は、後述する「看護職のキャリア発達曲線」の概念モデルを実証的に明らかにした草刈の調査結果の一環である¹⁰⁾。

3 キャリア発達の要因、構造、特質、影響因子

キャリア発達の要因に関する研究は、対象文献の中では最も多くみられ、要因の分析を試みている。それには、職業選択の動機や職業継続意識の中から要因を捉えるもの¹¹⁾、また、大学病院の経験10年以上の看護婦を対象に、半構成的面接法により要因を明らかにし、どの要因がキャリア発達過程にどう影響したか等に迫ろうとするもの¹²⁾、同じく面接による調査で、抽出された複数の因子の重なりによりキャリア発達過程が促進されていたことを報告しているもの¹³⁾、等がみられる。

川崎は、手術室看護師の自己啓発に関わる質問紙調査を行い、手術室看護師は発達過程のプロセスを踏めていない状況と考察している。また啓発の環境因子の中では学習機会、患者・家族との関わり、上司との関わり、役割遂行による満足感の獲得、について回答し

たものは少なかった、と報告している¹⁴⁾。

調査のなかで、管理職を対象にした研究が比較的多くみられることは、研究の領域からは当然ともいえるが、宮田は役職についていない中高年看護職者を対象として半構成的面接を行い、キャリア発達の要因について、職業意識、個人的要素、職場の人間関係から、コアカテゴリーが抽出されたと報告している¹⁵⁾。

石飛らは、質問紙による調査の内容分析を行い、専門性の向上について、まず必要な要素としてコードの抽出を行い、これらから知識の希求等のサブカテゴリー、さらに知識・技術・学習の技能、等の6つのカテゴリーが形成された、と報告している¹⁶⁾。

キャリア発達の構造についての研究として、特筆されるのは草刈の研究である。それは日本の看護職に初めて、「ライフコース研究」の視点を適用し、「ライフコース」と「キャリア発達」の2つの視点から、「看護管理者のキャリア発達過程」の全貌をとらえ構造化したものである¹⁷⁾。

グレッグらは、半構造化面接法により臨床看護師の経験を調べ、キャリア発達の構造には、基礎としての意思やコアの存在があり、このキャリアのなかで看護の追及が行われ、それが発達の基礎をより強固にし、発達のプロセスが繰り返され、さらなる発達を遂げるというキャリア発達の構造モデルを描出している¹⁸⁾。

今回の文献の研究対象として保健師は、看護師に比べ非常に少数であったが、保健師の人生体験をライフヒストリー法により分析した田中らは、キャリア発達の特質として、「働く女性としての道を開くこと」、「保健師として目指す方向をもち続けること」等5つの特質が抽出され、それらは相互に関連していることを報告した¹⁹⁾。

学校保健の主たる担当者である養護教諭を対象とした研究では、山道らは養護教諭職のキャリア発達の影響因子のなかの、職業意識、キャリアアンカー、成長に役立ったことの3側面について分析・考察し、職業意識の調査からは、養護教諭の特性が明らかとなったとしている²⁰⁾。

4 経験年数と研修

手術室看護婦の年次目標の記載をもとに、目標とキャリア発達の関連を検討した深澤は、看護経験年数及び手術看護経験年数と目標達成率には相関関係はみられず、研修の有無と

目標達成率にも関連はみられなかったが、研修経験者はそれが無いものに比べて目標設定範囲が拡大している傾向にあったと考察している²¹⁾。

5 卒後教育，継続教育

冒頭でも触れたように，急激な看護大学や大学院の増加にみられる，看護教育の高等教育化は，卒後教育，継続教育の整備をも促すものである。林，池西，グレッグらは，岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査として卒後教育，継続教育について，三報にわたって報告している。大学の諸制度・サービスについての認知では，県下看護職者の2割が科目等履修制度・編入学制度を知っていた事，今後活用を希望している内容は，「職場外での研修」と「看護系大学の活用」の割合が高い事，編入学試験受験意志のある群は，男性が多く，看護経験年数は10年未満で，病院に勤務する者が多い等を明らかにした²²⁻²⁴⁾。

継続教育に関する研究としては，長谷川らは，ファーストレベル研修に参加する以前の段階にある看護師では，過去の学習の動機には内発的，外発的動機付けが混在し，系統的な研修の積み重ねは十分ではなく，自己のキャリアの方向はある程度決められている者も多い，事等を結論として述べている²⁵⁾。

兼宗らは，キャリア発達の方向性としての具体的分野は終末期看護が最も多く，継続教育に関する情報の入手先も殆どが「看護部」で，情報源は県看護協会教育計画が殆どである等を明らかにした²⁶⁾。

6 職務特性

キャリアと職務特性を研究している坂口は，救急部門に勤務する看護職が対象者の半数を占める調査で，組織における個人の要因（キャリア志向）と組織の要因（職務特性）の認知的適合が，高いキャリア結果を導く等の報告を行っている²⁷⁾。また，看護職の職務特性としての因子，救急看護に特徴的な職務特性次元として，「技能多様性」と「同僚との協働」が抽出されたことや，発達には職務への適合認知が重要であること，等が示唆されたとしている^{28,29)}。

7 ライフイベント

長友らは，組織の頂点にたつ看護部長と副看護部長の基本属性とライフイベントを調査し，平均年齢や親との同居が就業を継続するうえでの一条件となっていること，婚姻率は

同世代の他職種に比べ高い等，看護管理者は，現代女性に近いライフイベントの特徴をすでに有しており，近年ますます職種間の差がなくなりつつあることをうかがわせると述べている。さらに10年後に再調査を行い，前回にみられた未婚者と既婚者間の役職就任時年齢の差は，今回は消失している，等が明らかになったと報告している^{30,31)}。

8 その他

山道らは養護教諭のキャリア発達に関する研究のための基礎的資料として，社会学等の近接領域のキャリア研究を概観し，養護教諭の分野の研究は力量形成や職能成長に主軸を置く「職業キャリア」に焦点を当てたもので，キャリアの一側面に限定された研究であったとまとめている³²⁾。

勝原らは，題目を「専門職のキャリア発達に影響を与えるリアリティショックの実態」として，看護学生から看護師への移行プロセスにおけるプロフェッションフッドの変容についての面接調査を行い，リアリティショックには，看護師のイメージと実際の臨床看護師とのギャップ，看護への期待と現実の看護とのギャップ，組織に所属することへの漠然とした考え方と現実の所属感とのギャップ等の7種類がみられ，リアリティショックはプロフェッションフッドを変容させていること等を明らかにした³³⁾。

考 察

1. 研究の蓄積

保健・看護職のキャリア発達に関する研究は看護教育の高等化や専門性の深化，医療の高度化等を背景とする，保健・看護職をめぐる状況の変化からの必然的な要請と考えられ，研究が勢いを増すのは90年代に入る頃からである。したがって研究の歴史はまだ浅く，研究の蓄積も相対的に少なく，看護学の研究においては，研究途上の段階にある領域といえ，今後の発展が期待される。

2. 研究対象，研究方法

研究対象の多くが看護師であったことは，保健師の絶対数を考慮すると当然ともいえるが，准看護師が少なく，准看護師のみを対象とした研究はみられなかった。キャリア発達を考える際，看護職の制度や教育など，その背景抜きには困難である。こうした，課題を構造的にとらえる視点からの研究の増加が望まれる。

研究方法としては，質問紙による量的な調査法が

多くみられる。2000年代から面接法による質的研究がみられるようになった。また研究内容の分類で明らかになったように、キャリア発達の要因、構造、特質、影響因子についての研究内容では7件中の5件が面接法である。量的な調査は、データが断片化される側面が懸念される。働く人、個人個人の具体的な経験を質的調査により明らかにしようとの方向性の表れと受け止められる。

さらに、半構成的面接による研究方法のなかでもライフヒストリーという質的資料による研究を行っているものは1件のみであった。当事者の主観的な視点にもとづいた語りを、客観的な資料と関連させながら、キャリア発達を包括的にとらえることは、研究を進展させるうえで非常に重要と考えられる。こうした研究により文献中の、「キャリア発達、(発達過程)」の定義に共通していた「(自己)実現」と「成長」の構築の実態が明らかになると思われる。

3. 研究内容

研究の内容にキャリア発達の要因、構造、特質、影響因子についての研究の増加がみられる事は、研究の進展を示す指標の一つといえよう。

一方、現在新人看護職員の10人に一人が就職後1年以内に離職することが日本看護協会の調査で報告されている(2005年)。

社会、文化の基礎となる経済的・物理的条件は、職業を継続しキャリア発達を支えるうえで重要な意味を持つものといえよう。しかし、こうした課題に関心をはらった研究はごく僅かであった。また、保健・看護職がなお女性性を有する職業であるところからも、キャリア発達に関わるこれらの女性労働としての、外的条件をも視野に入れた研究が求められよう。

4. 養護教諭のキャリア研究

養護教諭のキャリアに関する研究は、検索の結

果3件のみで、著者は山道を含む2名であった。論文のうち1件は本研究で先に検討した文献研究であり、他の2件はいずれも研究方法は質問紙調査法であった。

山道は、これまでの養護教諭のキャリア発達に関連する研究は、養護教諭の専門的力量の形成や資質の向上に主眼が置かれてきた、と述べている³²⁾。

これからの養護教諭のキャリア発達に関する研究は、量的な研究とともに、養護教諭のキャリア発達の過程を現実の変化として具体的にとらえ、客観的な資料と関連させながら、発達の内実を明らかにしていく質的研究が必要と考えられる。

本研究の限界

検索した文献の「論文種類」が、データベース上の区分と実際の文献と合致していないと思われる例が多くみられた。文献の収集において、そうした機器による検索の弱点の影響を受けている。同時に題目に「キャリア発達」「キャリア開発」と入っているもののみを抽出したが、キーワードや内容に「キャリア発達」「キャリア開発」があるものをここでは除いており、全体を網羅していない。今後は分析対象を拡げ研究を進めたい。

おわりに

保健・看護職におけるキャリア発達に関する研究を概観しその理論や方法において、研究は途上の段階にあることが確認でき、今後一層重要性を増す研究領域であるとの示唆を得ることができた。

こうした保健・看護職のキャリア発達に関する研究動向をも基礎とし、養護教諭のキャリア発達に関して、その発達を生涯発達の視座から包括的にとらえる方向での研究を目指したい。

文 献

- 1) 高橋照子：キャリア論とアイデンティティ論 ―看護学が取り組むべき課題―。インターナショナル ナーシング レビュー, 21(2), 36-40, 1998。
- 2) 渡辺三枝子編著：キャリアの心理学。ナカニシヤ出版, 147-149, 2003。
- 3) 若林満, 水野智, 佐野幸子：看護職キャリア発達 ―看護学校入学1年後における職業環境認知の変化―。名古屋大学教育学部紀要, 37, 31-50, 1990。
- 4) 若林満, 水野智, 佐野幸子：看護職キャリア発達(2) ―看護学校入学後2年間における職業環境認知の変化―。名古屋大学教育学部紀要, 38, 47-65, 1991。
- 5) 若林満, 水野智, 佐野幸子：看護職キャリア発達研究(3) ―勤労准看護学生の就業環境および就業意識―。名古屋大学教育学部紀要, 39, 1-13, 1992。
- 6) 柴田真由美, 飯倉久美子, 甲斐美弥, 安部美香：看護婦のキャリア発達と職務満足の関係 ―ベナーの技能修得レベル別にみて―。第25回日本看護学会論文集 看護管理, 137-139, 1994。
- 7) 門屋久美子, 安保弘子：認定看護師の存在が看護婦のキャリア発達志向に与える影響。第32回日本看護学会論文集 看

- 護管理, 33-34, 2001.
- 8) 小野公一: 看護師のキャリア発達とメンター —キャリア発達段階とメンタリングに関する面接調査—. 日本労務学会誌, 5(1), 63-72, 2003.
 - 9) 菊地佳代: 看護職のキャリア発達におけるメンタリングの一考察 —メンタリングとキャリア目標意識との関係を中心として—. 北海道医療技術短期大学部紀要, 14, 7-15, 2001.
 - 10) 長友みゆき, 草刈淳子: 大学病院看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する研究 その4) 異動・移動の実態とその要因. 病院管理, 32(3), 19-26, 1995.
 - 11) 山田光子, 大村久米子, 三枝純子, 飯濱澄子, 谷王子: 職業継続意識とキャリア発達の要因 —大学病院における価値観, 性役割の意識調査—. 第24回日本看護学会論文集 看護管理, 21-23, 1993.
 - 12) 川原尚子: 看護婦のキャリア発達に関連する要因について. 神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録, 24, 269-276, 1999.
 - 13) 水野暢子, 三上れつ: 臨床看護婦のキャリア発達過程に関する研究. 日本看護管理学会誌, 4(1), 13-22, 2000.
 - 14) 川崎広子: 当手術室看護師の自己啓発への影響因子 —キャリア発達過程, 環境, 個人因子より考える—. 日本手術医学会誌, 26(4), 72-74, 2005.
 - 15) 宮田美紀: 中高年看護職者のキャリア発達に影響を及ぼす要因の検討. 高知大学医学部看護・保健科学研究誌, 5(1), 113-122, 2005.
 - 16) 石飛悦子, 橋口智子, 福山麻里, 小林雅子, 田岡真由美, 渡邊フサ子, 岩本淳子, 松村喜世子, 大林末子: 看護師の専門性の向上に必要な要素からみたキャリア発達支援システムの課題, 第36回日本看護学会論文集 看護管理, 383-385, 2005.
 - 17) 草刈淳子: 看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する実証的研究. 看護研究, 29(2), 31-34, 1996.
 - 18) グレグ美鈴, 池邊敏子, 池西悦子, 林由美子, 平山朝子: 臨床看護師のキャリア発達の構造. 岐阜県立看護大学紀要, 3(1), 1-8, 2003.
 - 19) 田中美延里, 小野ミツ, 小西美智子: 先駆的な公衆衛生看護活動を展開した保健師のキャリア発達 —離島の町の保健師のライフストーリーから—. 広島大学保健ジャーナル, 5(1), 16-27, 2005.
 - 20) 山道弘子, 中村朋子: 養護教諭のキャリア発達に関する研究 —キャリア発達への影響因子に焦点をあてて—. 茨城大学教育学部紀要, 教育科学, 51, 141-151, 2002.
 - 21) 深澤佳代子: 手術室看護婦の年次目標とキャリア発達の関連. 日本手術医学, 26(4), 432-434, 1999.
 - 22) 林由美子, 池邊敏子, グレグ美鈴, 池西悦子, 橋本波枝, 平山朝子: 岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査 第1報 —岐阜県立大学が実施している諸制度の認知と大学院準備への希望—. 岐阜県立看護大学紀要第2(1), 28-33, 2002.
 - 23) 池西悦子, 池邊敏子, グレグ美鈴, 林由美子, 橋本波枝, 平山朝子: 岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査 第2報 —キャリア発達を目指した活動の実態と看護系大学における制度活用希望者の特徴—. 岐阜県立看護大学紀要, 2(1), 34-40, 2002.
 - 24) グレグ美鈴, 池邊敏子, 池西悦子, 林由美子, 橋本波枝, 平山朝子: 岐阜県内看護職のキャリア発達に関する調査 第3報 —編入学を希望する看護職の要因分析と編入学への期待—. 岐阜県立看護大学紀要, 2(1), 41-47, 2002.
 - 25) 長谷川真美, 兼宗美幸, 横山恵子, 坂本めぐみ: 看護師のキャリア発達と学習についての一考察 —キャリア探索期・試行期に焦点をあてて—. 第34回日本看護学会論文集 看護教育, 139-141, 2003.
 - 26) 兼宗美幸, 長谷川真美, 横山恵子, 坂本めぐみ: 看護師のキャリア発達の意識と継続教育の情報に関する一考察. 第35回日本看護学会論文集 看護教育, 226-228, 2004.
 - 27) 坂口桃子: 看護職の組織内キャリア発達 —組織と個人の適合過程—. 国際医療福祉大学紀要, 7, 1-29, 2002.
 - 28) 坂口桃子, 花井恵子, 三浦睦子, 吉田寿子, 小倉ひとみ, 山勢善江: 救急看護の職務特性とキャリア発達に関する基礎的研究1 —救急看護の職務特性—. 日本救急看護学会雑誌, 4(2), 88-98, 2003.
 - 29) 坂口桃子, 花井恵子, 三浦睦子, 山勢善江, 吉田寿子, 小倉ひとみ, 作田裕美: 救急部門に働く看護職のキャリア発達に関する実証的研究 —キャリア志向に焦点をあてて—. 日本臨床救急医学会雑誌, 7(3), 240-247, 2004.
 - 30) 長友みゆき, 草刈淳子: 大学病院看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する研究 その1 基本属性とライフイベントを中心に. 病院管理, 31(3), 25-31, 1994.
 - 31) 長友みゆき, 草刈淳子: 国公立大学病院看護管理者のキャリア発達 —ライフイベントの1990年度調査との比較—. 病院管理, 42(1), 89-97, 2005.

- 32) 山道弘子, 中村朋子: 養護教諭のキャリア発達に関する研究(1) 近接領域におけるキャリア研究の概観. 日本養護教諭教育学会誌, 5(1), 76-91, 2002.
- 33) 勝原裕美子, ウィリアムソン彰子, 尾形真実哉: 専門職のキャリア発達に影響を与えるリアリティショックの実態 —看護学生から看護師への移行プロセスにおけるプロフェッションフッドの変容に焦点を当てて—. 経営行動科学学会年次大会発表論文集, 7, 40-47, 2004.

(平成19年5月15日受理)

Career Development for Nurses in Japan

Setsumi KOUMI and Hiroe TSUSHIMA

(Accepted May 15, 2007)

Key words : nurses, career development, literature review

Correspondence to : Setsumi KOUMI

Fukuyama City Junior College for Women

Fukuyama, 720-0074, Japan

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.17, No.1, 2007 185-193)